

## アンケート集計結果報告

### 1. 子どもの発達が気がかりな時の相談について

- ・どこに何を相談するべきかが分からない。どのようなアドバイスがもらえるのか、何をしてもらえるのか
  - 自治体の相談窓口へつなげるための周知や啓発が必要。また、子どもが通っている所属先(学校、保育園、幼稚園)や、異なる窓口にお問い合わせがあった場合に、適切な相談窓口へ繋がられるよう、各所属の職員へ情報共有が必要。
  - 出産後にもう手当や書類の中、あるいは母子手帳の中に、何か困ったらここへ連絡してね、と書かれたものがあるといふ。
- ・学校生活での困りごとはないが、家庭生活の中での困りごと、関わりについて相談できる機関がない。
- ・健診等で「様子をみましょう」と言われた時にどれくらいの期間待てばよいのか悩む利用者がいる。
- ・子どものために何をしてあげたらよいかわからない。
  - 子どもの特性からたどれるフローチャートがあると良い。(フローチャート+親が対応法を学べる機会の紹介等がわかるとよい)
- ・言語発達、運動発達など、親が気になる子どもの発達内容別に専門的な相談が受けられるか。
- ・保育園や幼稚園などでの様子が気になっているが、なかなか言い出しにくい。小学校入学に向けて、集団生活や学習などに心配がある。
- ・保育園や幼稚園からの就学前施設からの相談。家庭との連携の仕方(保護者理解を求めたいなど)。人手不足で、発達障害が疑われるなど、集団生活が難しい子どもへ十分な支援ができない。また、クラス運営が難しい。
- ・就学相談において、家庭と就学前施設とで意見の相違がある。
- ・どの程度の“気がかり”で相談したらよいのか
- ・相談するときに伝える内容(どのような情報をメモしておけばよいのか)
- ・医療機関、子発、健福、教育支援センター等、それぞれの部署での「心理相談」の特徴
- ・他の地域から引っ越しをされきたりするケースでは、今までは1か所に相談するとシームレスに進んでいたが、板橋区は相談先がバラバラのため分かりにくいと言われることがある。
- ・気がかりでも自分の子供が相談して良いのか迷わないよう、相談しやすい窓口の情報を流してほしい。
- ・どこに行ったら良いのか(子ども発達支援センター、児童相談所、病院等)どこでも良いなら自分はどこへ行ったら良いのかと迷ったときに相談できる窓口はどこか。
- ・どこに相談に乗ってもらえるのか
- ・相談したら必ず何かサービスにつなげられてしまうのではないかと不安
- ・まず話を聞いてもらえるだけでいいのだが、そういう場所があるのか

## 2. 子どもの発達に気がかりな時の受診先について

- ・病院を敬遠、検討しない保護者もいる。医療につながらずに済むならそれに越したことはないという気持ちも理解したうえで、医療につながっておくことで得られるメリット等も情報提供できるとよい。
- ・発達について診てくれる医療機関一覧の情報提供。
  - 病院やクリニックの強みや、勤務されている先生の専門を知ることができると、親が気がかりな内容を専門に扱っている病院にアクセスしやすくなるのではないかな。
- ・どこで受診をすればよいのか、診察する科がわからない。
  - 子どもの特性から受診先が選択できるとよい。まずは保健センター、子ども発達支援センターに相談になるのか、かかりつけの小児科医(定期的に健診を受けている病院)も相談先になるのか。産院や小児科、発達支援センターの中に医師とつながるところがあるとよい。
- ・服薬について知りたい。
- ・相談しようと思い連絡したが、予約がすぐに取れず困っている。
  - 医療機関の予約状況(〇か月待ち等)
- ・薬ではよくはならないため、個人的には、診療内科や精神科などには繋がらないでほしい。それよりも、栄養でかなり変わるため、栄養指導をできる医師や栄養士の食の専門家のところにつないでほしい。これについては、体験があるため、興味があれば聞いてください。
- ・病院探しのポイント、どのような受診先を探したらよいのか
- ・小児精神科医、心理士、PT、OT がいるかどうか
- ・医療機関の受診相談方法
  - ・初診としてどこに相談しても良いのか分からないケースが、支援者側としても多い。発達検査、薬の処方、歯科治療、リハビリ、てんかんなど医療機関によって、得意なことが異なる上に、大学病院などの大きな病院になると初診にハードルがあるので紹介しにくい。
- ・大きな病院はハードルが高すぎる
- ・地域の小児科でまず相談できるところはあるのか
- ・障がい児が受けられる耳鼻科、眼科、歯科、外科などはあるか

## 3. 発達検査について

- ・どこでできるのか、いつでも受けられるのかが分からない。
  - 区内で発達検査が受けられる医療機関や支援機関などの情報提供。(加賀福祉園でも区民であれば無料で発達検査が受けられるが、そうした情報はあまり知られていない。)
- ・発達検査自体が何をするのか、何を知るためか分からない。検査内容の読み方、見方が分からない。
  - 発達検査の種類と内容、検査可能な時期が分かると良い。(年齢、タイミング、エピソード等)
  - 発達検査を受けるとどのようなことがわかるのか、保護者にわかりやすく示せるとよい。発達検査で出た数値や結果がその子のすべてでないことを強調しながら、「現在の発達状況を客観的にみられる」「得意、不得意が明らかになって、発達支援に活かせる」などのメリットを伝えられるとよい。

- ・受けた方がよいのか、発達検査対象の基準

- ・検査に一喜一憂することや、やみくもに検査を受けることが増えそうなので、ガイドブックの項目とするのが良いか分からない。

→支援や関わりの具体例の中で紹介する程度でよい。

- ・発達検査で知的な遅れがあると言われた場合、どうしたらいいか。(入学に関わるか、今のまま在籍できるかなど)

- ・検診が一番だが、来ない親(ネグレクトの疑いあり)もいる。

→手当を出すときに訪問で様子を良くみてあげるべき。

- ・どこで受けられるのか

- ・どれくらいの頻度で受けられるのか

- ・どんな検査を受けたらよいかどこで相談できるのか

#### 4. 福祉サービス・手当について

- ・サービス・手当の一覧と相談先

→使いたいサービスや手当がどこの担当課になるのか一覧があるとよい。

- ・手帳を取得した方へは自治体が案内するが、そうでない方へは情報が行き届いていない。

→医療機関や子どもの所属先などで紹介してもらえるとよい。

- ・保護者が知りたいのは、事業者の一覧リストやホームページでは得られない「実際の療育の中身」や「評判」等であると感じるため、ガイドブック等よりも、相談員などとの対話の中で提供していくほうが適していると感じる。受給者証発行手続きについても分かりづらい点が多いため、その都度説明していくほうが望ましい。

- ・福祉サービスのリストだけであれば、東京都福祉保健局の「障害者サービス情報」で足りると思うため、ホームページの案内を記載する。また、リスト等を基に、さらに詳細な情報を聞くことができる窓口の連絡先など併記しておいてもよい。

- ・制度の紹介や利用までのフローチャート等を作成する。

- ・情報量は、経験豊富な民間事業者が持っていることが多いため、積極的に活用していくのもよい。

- ・療育機関を勧められた際の相談先と流れ

- ・療育施設について、どこで相談にのってくれるのか

- ・各療育機関の特徴(集団/個別、運動系等)

→親が子どもの特性に応じて事業所を選択できるよう、事業所の強みや得意としていることがわかるとよい。

- ・各療育機関のHPのリンク(二次元コード)

- ・冠婚葬祭や親の入院等の際に子どもを預けられるサービスはあるのか。

- ・放課後等デイサービス事業所が圧倒的に不足しており、必要なときに入れない。

- ・新年度に向けた準備が整わない。(空き状況が分からず、待機となるなど)
- ・移動支援について、利用できる条件に合わず、利用できないことがある。
- ・必要な支援が内容にないことがある。
- ・うちの子に合った事業所をどうやって探したらよいのか
- ・同じサービスをいくつも受けてよいのか

## **5. 医療費助成について**

- ・費用がかかるので、受診をためらってしまうことがないように、区が積極的に周知するべき。
- 医療機関からも助成の案内をしてもらう。
- ・受けられる助成について、どのようなものがあるか。
- ・板橋区は、子どもは無料なのでありがたい。精神科、診療内科については、自費としてもいいと思う。
- ・どうやったら受けられるのか

## **6. 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳について**

- ・相談・申請先(愛の手帳は年齢によって違う)
- 取得までのフローチャート等と、取得後に利用できる制度等。(転入時の手続きについても)
- 受けられる手当などを知っていれば、早期に申請する方が増える。
- ・手帳を取得するメリット、デメリットをきちんと説明できるようにしたい。
- 障害者手帳を取得して受けられる制度やサービスの内容が一目で理解できるとよい。
- ・取得できる障害の程度について知りたい。
- ・板橋区でことが足りればそれが一番いいが、子どもによっては、連れていくのも一苦労なので、来てもらっての判定もありだと思う。
- ・療育機関やサービスによっては、手帳が必須なものもあるのか
- ・どこで受けられるのか
- ・何年で見直しするのか
- ・手帳を持つメリットデメリットを知りたい

## **7. 保育園・幼稚園について**

- ・保育園や幼稚園の先生方にも相談先や発達についての理解を深めてもらう必要がある。
- ・障害のある子を受け入れてくれる園について知りたい。
- 要支援児の受け入れの可否や過去の受け入れ状況の記載。現状の保育園・幼稚園がどのように特性あるこどもを受け入れており、どのような配慮をされているのか。サポートが必要な場合、どのような支援が受

けられるか。

- ・保育園と療育を併用する子どもが増えている。保育園施設の役割、療育施設の役割が載せられるとよい。
- ・保育園や幼稚園に在籍しながら必要な支援を受けることが理解できるよう「保育所等訪問支援」に関する情報についても掲載できるとよい。
- ・インクルーシブな環境できょうだい児も一緒に通園できる園はあるか。  
→インクルーシブな環境で子どもの育ちを見守りたいと考えている親もいると思うので、インクルーシブ教育を行う園の情報や、障害児の受け入れ経験がわかるような一覧があるとよい。
- ・通わせることが難しい場合、受けられる支援はあるか。
- ・先生たちが学ぶ機会を得られること、気持ちを吐き出す場所があること、も必要だと感じる。また、園の中に作業療法士がいることも助けになると思う。
- ・要支援児申請、加配の内容とメリット、手続き方法
- ・保育園や幼稚園において、職員の加配をどのようにつけているのか。
- ・ニーズのある子を受入れてくれる園はどこか
- ・先生方がどの程度障がいについて理解し、対応可能なのか
- ・加配をつけてもらえるのか

## **8. 就学相談について**

- ・年々相談件数が増加しているため、相談窓口として浸透してきている。
- ・就学相談を通して、現在通っている園などが引き継ぎのための資料(就学相談シートや就学支援シート)を作成するが、それが通学先で活かされているか。
- ・現行のガイドブックの情報を電子申請用に更新したほうが良い。
- ・特別支援学校と支援学級のフローチャートは分けたほうが良い。
- ・相談先機関、具体的相談内容があると相談しやすい。
- ・通常学級、通級指導教室、特別支援教室(STEP UP 教室)、特別支援学級、特別支援学校と様々な選択肢があるが、保護者にとっては違いが分かりづらいため、それぞれの特徴について一目で理解できるような情報があるとよい。
- ・就学相談の流れについて知りたい。
- ・どういう場合、相談した方がよいのか、相談時期やタイミング
- ・申し込み時期と方法(前年 10 月ごろから LoGo フォームで申し込むと聞いている)
- ・園から就学相談を勧めたい場合があるが、保護者理解を得られないことがある。
- ・就学相談の結果について、心配・不安・不満がある。
- ・先輩の保護者から話を聞くのが一番よい。(YWCA キッズガーデンなど)
- ・家族間の合意ができていないところで相談に乗ってもらえるのか

- ・学校見学はいつごろからどんな受入れをしてくれるのか
- ・学校見学ではなく、普通の生活を見る機会があるか
- ・就学相談は必ず受けないといけないのか
- ・学務課の「就学までの手引き」の動画の存在を周知できるとよい

## 9. 学校生活について

- ・教員の理解とスキルアップが不可欠である。
- ・学校外で療育的な支援を希望する保護者が一定数おり、放デイにその機能を求め、放デイ側も応えてしまうが、学校でも放デイでも頑張る子どもは疲れをため込んでしまいがちである。
- ・訪問リハや、保育所等訪問支援など、学齢期の療育的サポートも増えてきてはいて、親のニーズも高いが、それが子ども自身の毎日の生活にとってどうかという視点は忘れないようにしたい。
- ・特別支援学校、特別支援学級、ステップアップ教室、それぞれの支援内容について記載があるとよい。
- ・登下校の付き添いに関する情報(いたばし子ども見守り隊・スクールガード制度の取り組みなども含め)があるとよい。
- ・卒業後の進路選択にあたって、特別支援学校におけるキャリア教育の現状がわかるとよい。
- ・入学前までに準備しておくことがあれば知りたい。
- ・身辺面について、自立ができておらず、入学できる場があるか不安。
- ・学校生活が合わず、不登校になってしまった。
- ・子どもの状態について、学校と家庭間で意見の相違がある。
- ・専門家の方に、学校生活について相談したい。
- ・子どもが支援級にいくのか普通級にいくのか、夫婦や祖父母との間でも意見は異なり悩む保護者がいる。  
→その子にとって一番今大事なことは何かを見つけていけるような、家族全体への丁寧な説明が必要。  
また、普通級と、支援級をいったりきたりしながら学習できる環境が整うとよい。
- ・このような支援の仕方がある、将来はこんなふう to 成長していくと、進学や就職などいくつかの事例が示せるとよい。
- ・子どもが将来どうなるのか、というのが1番の親の心配である。こんなにゆっくりな子どもでも、こんなに勉強がわからなくても、多動でも、泣き虫でも、成長していくんだ、という事実を知るだけで安心することもあるため、親の会につないで、信頼できる先輩と知り合いになることはとても心強い。  
→板橋区で活動している親の会やグループ、団体を紹介できるとよい。また、近隣区の情報も共有できるとよい。
- ・地域の防災訓練に参加した時、民生委員から声をかけられて、我が家を把握していることを知り、ありがたかった。何かあったときに助けてもらえたり、気にかけてくださる方がいるんだな、と思ったため、近所の民生委員の名前も教えてもらっているとよい。  
→個人情報をもらしたのか、という人もいるかもしれないので、どの情報がほしいのか、とリストから選べる  
とよい。

・子どもが、学校の中でしんどさを抱えているときに、横須賀市では学校にお手紙箱を設置して、カウンセリングの先生と話ができるようになっている。担任には言わない大事な情報を話してくれるため、情報を共有できて喜ばれている。

→これは、資格を持っているから良い、ではなく効果的なカウンセリングができるかどうかである。カウンセラーの選定は大事。

・途中で転校、転級は可能なのか

・試しで期間限定で別の学校を体験できないか

## **10. 家族向けの研修、親の会について**

・発達に気がかりのある子どもには、環境の整備が不可欠のため、適切な接し方等の家族向け研修をもっと拡大してほしい。

・親の会には積極的に会員の勧誘や研修の開催等を行ってほしい。

・個別・短時間の療育のみ利用している子どもの保護者の中には、「保育園の中の保護者会にも居場所がなく、療育でも保護者同士のつながりがない」という方もおり、ピア的な交流や、情報源としてそうしたつながりを求める声もあるが、特に支援学級、普通級に入学した児童の場合には、参加が難しい状況がある。

・どのようなものが開催されているか分からない。

→ライフステージ別で分かれながらも網羅されている案内があるとよい。

・子どもの特性によっては保護者が関わり方に戸惑い、心身を病んでしまったり、虐待につながってしまうこともある。

・ペアトレーニングについて、受けることのできる場所の情報の一覧表があるとよい。

・子どもの特性によつての研修、親の会の紹介をわけると保護者が選択しやすい。

・家族向けの支援機関や団体について情報が欲しい。

・親の会があるのか、どのような人が参加しているのか(子どもの年齢、障がいの種類・程度、雰囲気等)

・研修があるのか(いつ、どこで、対象、内容)

・手帳をとってから、学べるように研修や親への案内をしていくとよい。

→正しい介護の仕方を早めに知ることが大事。

・障がい児を預けて受けられるような研修があるか

・同じような悩みを持つほかの親の声を聴きたいが、そういう場に出向く勇気がない

・オンラインで参加できるようなどころがあるか

## **11. 親の就労支援について**

・相談窓口の周知や就労支援サービスの拡大などの対応が必要。

・移動支援を利用して療育に通う子どももいるが、ヘルパーが見つかるかどうかや、支給時間の制限もあるため、希望通りにならないことが多い。

- ・移動支援事業所リストはあるが、数が多いため、乳幼児を含めた児童を対象としているかどうかだけでも、リストに記載してほしい。(リスト自体をガイドブックに載せる必要はない。)
- ・早期発達支援の重要性は保護者にあると考える。
- 実現していくためには児童福祉の枠を超えた制度となる。子どもの発達支援と並行して、子どもの障がい理解に向けた親向けのプログラム等、その一定期間を経済的に支える独自の制度があるとよい。
- ・どのような制度があるのかわかると良い。
- ・金銭面での支援と就労するにあたっての支援
- ・障害のある子どものケアのために仕事を続けられなくなった際の支援、相談窓口はあるのか(復職支援・再就職支援)。
- ・障害のある子どもを育てながら、働ける場を見つけたい。
- ・職場での理解を得にくい、得たい。
- ・保護者を支えるデイサービスがたくさん増えたが、あまり便利になりすぎて、人任せで子どもに関心を持とうとしない方もいる。親との連携を密にして計画的に支援ができるよう、親にも責任をもたせる必要はあると思う。
- ・就労のため、放デイ利用できれば良いが、空きがなく思うように利用出来ない時、他に子どもを預けられるサービスはないのか。
- ・子どもの障がいを理解して配慮のある職場を探したい

## 12. 親のこころのケアについて

- ・親の会等でピアカウンセリングのような形での対応は難しいか。
- ・保健師による人的サポートには限界があるため、既存の制度で不足はない。
- ・子どもの障がい理解に向けたプログラムや学齢期の家庭での困りごと相談、両親での障がい理解に対する支援(父子支援)。
- ・相談機関と病院一覧表があると選択しやすい。
- ・保護者のレスパイトサービスに関する情報。
- ・障害児の子育てについて、悩みがあり、相談したい。
- ・仲間や、先輩がいることは吐き出せる場所があり、大事。仲間と一緒に子どものために一緒に活動して世の中がより良い社会へと変わる力となっていく。まず、親自身が安定しなければ、子どもや夫、といった家族を大事にはできない。
- ・親が信頼できる心理カウンセラーからカウンセリングを受ける費用を支援するのもよいと思う。
- ・親の時間を確保することが、心のケアにつながる。また、家族同士の交流が、保護者の心のケアに繋がる。
- ストレスや心の負担は、親の心理的な健康に影響を及ぼすことへの理解を促し、ストレス管理や感情のコントロールの重要性と方法を定期的な研修会などで示していけるとよい。
- ・親が受診したいがその間に子供を預かってもらえるところがあるのか
- ・親子で受診できるところがあるか



- ・親にもなんらかニーズがあると思われる時の相談の乗り方の配慮

### 13. きょうだい児について

- ・親と子どもどこにも相談できるところがない。  
→ピアグループで気軽に相談できたり、話し合える場があるとよい。
- ・きょうだい児の問題意識が醸成されたのが比較的最近と思われ、発信されている情報量自体が少ない。
- ・きょうだい児を支える場があるか、知りたい。  
→家族のサポート体制の仕組みがあるのならそこを載せられるとよい。
- ・保護者や支援者がきょうだい児支援の必要性について理解を深めることのできる機会(研修等)※具体的なきょうだい児団体(YWCA)
- ・きょうだい児に対する情報提供(障害のある兄弟姉妹の障害について、障害のある兄弟姉妹との関わり方)
- ・きょうだい児支援について、歴史があり長く続けている団体をいくつか紹介するのもよい(YWCA など)。  
→きょうだい児や家族が支援されたことにより、親がとても活動的で、人生をたのしめている家庭が多い。
- ・きょうだい児の子育てについて相談できるところがあるのか
- ・きょうだい児にいつどうやって障がい児のことを伝え理解してもらったらよいか
- ・きょうだい児の妊娠出産に自信がない

### 14. 新たに項目を設定する場合の項目と内容

- ・具体的な事例集
- ・外国籍版を準備できると良い。
- ・項目:余暇支援 内容:障害のある子どもの特性に配慮した余暇活動を提供する場があるか
- ・遊べる場所、泊まれる場所、区の保養所のようなところ
- ・緊急一時保護、ファミリーサポート  
→急な不幸があった場合や、きょうだい児の入院の時に、障がいのある子どもを預けられるところがあるとよい。普段から利用して慣れさせることは大事。
- ・大人になったらどうなるの、という大雑把な見通しも知ることができたらよい。(この子は働けるの?生活していけるの?親が死んだらどうなるの?など)
- ・関係機関それぞれの説明、どのような支援ができるのか(健福であれば、健診や心理相談の説明と地区担当保健師が個別に相談対応できること等)
- ・項目→外国籍の家族への支援  
内容→文化や習慣の違いを理解して支援することの難しさ、関係機関との連携がさらに重要、信頼関係づくりのためのコミュニケーションが重要、どうやって支援につながったらよいのか、つながる必要があるのか不安が大きい

## 15. 障がい児部会で意見交換したい内容等

・ガイドブックを新たに作成するとして、区内の児発、放デイ、短期入所、移動支援、保育園、幼稚園のリストおよび関連する情報を網羅的に載せればかなり厚みが出てしまう。また、情報が古くなってしまうことにも留意が必要となる。すべて載っているという安心感が出るが、使い勝手が良いかは疑問であるため、今のガイドブックの厚みくらいのものがよい。

・既にあるものをどう活かすか、どうそこに繋げていくかということも大切。

・今回、家族への情報提供を議題として、新たな情報ツールの作成を検討しているが、既存のガイドブックで情報は十分と感じる。制度変更も多く、家庭によってニーズも様々である中、それに合わせた情報ツールのメンテナンスの負担が大きくなる。情報ツールを検討するよりも、窓口を一本化し、そこからあらゆる情報へつなげられるような仕組みを目指すべきである。(例えば、既存の民間の相談支援員の対応範囲を広げるようなイメージ。)

・学齢期からの不登校や学校への不適應

→特別支援学校へ入学するが学校に来ないので関係性も築けず、支援が滞ってしまう。

・地域において障害児者家族を包括的に支えるための仕組みづくりについて

・幼稚園、保育園からの発達に関する相談件数が多く、その中には家庭からの理解が得られていないケースがある。園からは、専門家や相談先から打診してくれたらというニーズを感じる。「こんな場合は相談してほしい」といったリーフレットが一律配布されるなど情報提供の機会を検討したい。

・小学校入学後の支援先が不足している。固定学級の児童増加、通常学級に在籍する児童で支援を要する児童の増加。

・あいキッズへの支援。(要支援児の増加、環境面、指導者支援など)

・保育園、幼稚園の先生、学童スタッフ、学校の先生のケアはどうなってるのか？と心配。合理的支援をするには人が足りず、心をやむ支援者が多いのではないか。

・後見人制度のメリット、デメリット

・サービスを知らなくて困っていること(ex:障がいのある子どもが積み立てする年金があることを知らなかった。)

・ヘルパーの利用はとてもありがたいが、人手不足で中々利用が難しい。週末の居場所もいくつかあるとよい。

・飲食店や、床屋などバリアフリーにしてくれたらもっと利用しやすい。バリアフリー支援費をだすとか。

・駅に子ども用バギー(車椅子)のことがポスターになっていた。知ってもらうことは大切。

・ヘルプマークを持つ人が増えており、支援してほしい人が多いのに支援する人が少ない状況になっている。

→本当に支援の必要な人に出してほしい。

・障がいのある子どもは、偏食も多い。食事は、体はもちろん、精神にも影響がある。

→食事指導や、補助食品をうまく使うなど、早い時期に親が学ぶ機会があるとよい。

・児童発達支援事業所同士のつながりをどのように持っていくか。

・児童発達支援センターを中核とした体制整備を板橋区としてどのように進めていくか。